

2-3 日本語教育学

研究・教育活動の概要と特色

本専攻分野では、日本語教育学の教育・研究範囲を日本社会や文化、日本人の意識などまでも含めた広い文脈で捉えている。以下に教育・研究活動の概要とその特色を概括する。

第1の特色は、学部・大学院それぞれに、学生自身がコースデザインから日本語の授業担当、報告書作成までを行う教育実習が用意されていることである。

第2の特色は、日本語教師養成に関わる研究、特に実習における実習生の態度変容や、現場経験の多寡が教師の授業活動に対する意識やイメージにどのような影響を与えるかなどについては、日本語教育における研究事例が少ないので、価値ある研究と言えよう。

第3の特色は、日本語が用いられる社会的かつ文化的背景を明らかにするため、社会心理学・産業・組織心理学および社会学を専門とする教師が所属していることである。現代日本人のジェンダー、キャリア発達や生活時間に関する実証的研究を行っている。

第4の特色は、質問紙法や調査的面接法、統計やプレゼンテーションのスキルなどについての実践的な講義も学部・大学院で提供していることである。

I 組織

1 教員数 (2008年4月現在)

教授：2

准教授：1

講師：1

教授：才田いずみ、鈴木淳子

准教授：名嶋義直

講師：田中重人

2 在学生数 (2008 年 4 月現在)

学部 (2 年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生	科目等履修 生
30	4	8	1	0	

3 修了生・卒業生数 (2004~2008 年度)

年度	学部卒業者	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (満期退学者)	博士学位 授与者
04	12	5	1	0
05	14	3	1	0
06	8	3	1	1
07	10	5	1	1
08	0	0	1	0
計	44	16	5	2

II 過去 5 年間の組織としての研究・教育活動 (2004~2008 年度)

1 博士学位授与

1- 1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
04	0	0	0
05	0	0	0
06	1	0	1
07	1	0	1
08	0	0	0
計	2	0	2

1- 2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

藤田裕子、2006 年度、『外国語学習スタイルの異文化間比較のための基礎的研究
— 韓国人・中国人大学生日本語学習者を中心に—』

審査委員：教授・才田いずみ（主査）、教授・鈴木淳子、教授・行場次朗、
助教授・名嶋義直、助教授・福島悦子、助教授・助川泰彦、講師・田中重人

呉正培、2007年度、『韓国人大学生の日本人イメージに関する社会心理学的研究
—日本語学習の影響を中心に—』

審査委員：教授・鈴木淳子（主査）、教授・才田いずみ、教授・大淵憲一、
准教授・名嶋義直、准教授・助川泰彦、講師・田中重人

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
04	1	1	0	0	2
05	3	2	0	2	7
06	2	1	0	0	3
07	0	0	0	1	1
08	1	0	0	0	1
計	7	4	0	3	14

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
04	0	2	0	0	2
05	2	3	1	0	6
06	3	3	0	0	6
07	0	0	1	0	1
08	1	0	0	1	2
計	6	8	2	1	17

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

アントン・アンドレエフ、Keigo Acquisition in Japanese Primary School Students,
『第1回日本語学・日本語教育学シンポジウム：ソフィア 2004年9月23日
-24日論文集』, 2004年.

遠藤清佳・栗原通世・助川泰彦 「定住外国人への保健・医療支援の現状—保健・
医療通訳ボランティアの視点から—」, 『多言語社会と外国人の学習支援』
慶應義塾大学出版会, 2005年.

呉 正培 「韓国人大学生の日本人に対するステレオタイプ研究：日本語学習と
の関係」, 『文化』第69巻 第1・2号, 2005年.

- 呉 正培 「韓国人大学生の日本人ステレオタイプに関する質的研究：日本語学習の影響を中心として」『日語日文学研究』59輯1巻，韓国日語日文学会，2006年.
- 呉 正培 「日本語学習者の日本人イメージにみられる特徴とその形成要因：韓国の大学における学習者と非学習者の比較」『世界の日本語教育』第18号，国際交流基金，2008年.
- 栗原通世 「中国語北方方言話者の日本語長音の知覚特徴」，『東北大学大学院文学研究科言語科学論集』第8号，2004年.
- 栗原通世 「中国語北方方言話者の日本語長音と短音の産出について」，『東北大学大学院文学研究科言語科学論集』第9号，2005年.
- 楊 帆 「日本語教室における誤用への教師の訂正／非訂正と授業参加者の意識」，『言語科学論集』第9号，2005年.
- 楊 帆 「教室活動に見る誤用訂正と授業参加者の意識」，『第三回大学日本語教育国際シンポジウム論文集』西安交通大学，2006年.
- 楊 帆 「誤用訂正に対する意識—中国人日本語学習者と中国人教師の場合—」，『小出記念日本語教育研究会論文集』第14号，小出記念日本語教育研究会，2006年.
- 楊 帆・高橋わかな・吉武あさみ・助川泰彦 「仙台市公立保育所における日本語を母語としない子どもたちの現状と課題」，『多言語社会と外国人の学習支援』慶應義塾大学出版会，2005年.

(2) 口頭発表

- 呉 正培 「韓国人日本語学習者の日本人に対するステレオタイプのイメージ—非学習者との比較を通して—」，2004年度日本語教育学会秋季大会，新潟大学，2004年10月10日.
- 呉 正培 「韓国人大学生の日本人ステレオタイプ研究：社会心理学的影響要因の検討」，日本社会心理学会 第46回大会，関西学院大学，2005年9月24日.
- 呉 正培 「韓国大学生の日本人に対するステレオタイプ：日本語学習の影響を中心として」，韓国日語日文学会 2006年度夏季国際学術大会，清州大学校，2006年6月17日.
- 呉 正培 「質的調査による日本人ステレオタイプの内容の検討：韓国人大学生の場合」，韓国日本学会第74回国際学術大会，建国大学校，2007年2月10日.
- 栗原通世 「中国語北方方言話者の日本語長音の知覚と産出の関係」，2005年度日

- 本語教育学会春季大会，横浜国立大学，2005年5月22日。
- 栗原通世・助川泰彦 「母語別に見た日本語学習者による母音長の範疇知覚」，
Fifth International Conference on Practical Linguistics of Japanese, San Francisco
State University, 2006年3月4日。
- 佐藤雅子・鈴木衣今子 「ベトナム・ホーチミン市における日本語教育専門家・
日本語教育指導助手と現地日本語教師との関係—教師協同のためのピリーフ
ス・チェックシート試案—」，日本語教育学会実践研究フォーラム，早稲田
大学東伏見キャンパス，2007年8月4日。
- 仁科浩美 「口頭テストにおける日本語教師の評価と発話データとの関係—研究留
学生を対象とした形成的評価を例に—」，第26回日本語教育方法研究会，国
立国語研究所，2006年3月18日。
- 黄 家琦 「台湾普通高校の日本語教育の実情—9人の台湾人日本語教師のインタビ
ューを通して—」，第27回日本語教育方法研究会，仙台国際センター，2006
年9月23日。
- 森亜佐美 「外国にルーツを持つ児童・生徒の教育支援へのニーズ—山形県村山
地域での調査をもとに—」，第27回日本語教育方法研究会，仙台国際センタ
ー，2006年9月23日。
- 梁 賢俊 「韓国人学習者の漢語系形容動詞の習得に関する研究—中国人学習者
との比較を中心に—」，2005年度日本語教育学会秋季大会，金沢大学，2005
年10月9日。
- 楊 帆 「誤用訂正に対する中国人日本語学習者と教師の意識—教室における発話
訂正の場合—」，2004年度日本語教育学会春季大会，東海大学，2004年5月
23日。
- 楊 帆 「教室活動に見る誤用訂正と授業参加者の意識」，第三回大学日本語教育
国際シンポジウム，中国・西安交通大学，2005年8月2日。
- 楊 帆 「誤用訂正の方法と授業参加者の意識」，日本語教育国際研究大会 ICJLE2006，
コロンビア大学，2006年8月6日。
- 楊 帆 「誤用訂正のタイミングと授業参加者の意識」，第27回日本語教育方法研
究会，仙台国際センター，2006年9月23日。
- 楊 帆 「誤用訂正に対する意識の学年間比較：中国の大学の日本語教室の場合」，
2008年日本語教育国際研究大会，釜山外国語大学校（韓国），2008年7月13
日。

3 大学院生・学部生等の受賞状況

ヤマモト・ルシア・エミコ（専門研究員）「国際労働移動が家族関係にもたらす影響—性別役割の研究を中心に—」平成 19 年度東北大学男女共同参画奨励賞「沢柳賞」プロジェクト部門 特別賞 2007 年 11 月

4 日本学術振興会研究員採択状況

2003 年度～2004 年度 （DC2）特別研究員 採用計 1 名

2004 年度～2005 年度 （PD）外国人特別研究員 受け入れ 計 1 名

5 留学・留学生受け入れ

5- 1 大学院生・学部学生等の留学数

2004 年度 学部 計 2 名 カリフォルニア大学ロサンゼルス校（アメリカ合衆国），トロント（カナダ）

2006 年度 学部 計 2 名 カリフォルニア大学サンタクルーズ校（アメリカ合衆国），全北大学校（韓国）

2007 年度 学部 計 5 名 カリフォルニア大学サンタバーバラ校（アメリカ合衆国），ニューサウスウェルズ大学（オーストラリア），ルンド大学（スウェーデン）

5- 2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
04	2	2	4
05	3	3	6
06	6	0	6
07	3	2	5
08	7	4	11
計	21	11	32

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
04	2	0	2
05	1	0	1
06	3	0	3
07	3	0	3
08	2	0	2
計	11	0	11

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

- 大津堅 韓国・建陽大学校日本語文化学科 専任講師 2004 年度
溝井益実 マレーシア・Universiti Industri Selangor 日本語教師（日本マレーシア
高等教育大学連合プログラム；Japanese Associate Degree Program）2005 年度
森川舞子 韓国・建陽大学校日本語文化学科専任講師 2005 年度
猪狩哲郎 韓国・釜慶大学校人文社会科学大学 日語日文学部 外国人講義招聘
教授 2005 年度
内山潤 金城学院大学文学部 言語文化学科 講師 2005 年度
佐々木良造 マレーシア・Universiti Industri Selangor 日本語教師（日本マレーシ
ア高等教育大学連合プログラム；Japanese Associate Degree Program）2005 年度
仁科浩美 山形大学留学生センター 講師 2006 年度
廖 程 中国・西安外国語大学東方語言文化学院専任講師 2006 年度
舟森久美子 ノボシビルスク国立大学外国語学部 日本語教師 2007 年度
栗原通世 国士舘大学 21 世紀アジア学部 講師 2008 年度
楊 帆 山形大学国際センター 講師 2008 年度

7-2 専攻分野出身の高度職業人

- 日本語教師 5 名，青年海外協力隊日本語教師 5 名，国際交流基金海外派遣
日本語教育専門家 1 名，保育園・中学校・高等学校教諭各 1 名，システムエン
지니어 2 名，ジャーナリスト 2 名，出版社社員 1 名

8 客員研究員の受け入れ状況

なし

9 外国人研究者の受け入れ状況

釜山大学校（韓国）助教授	Kim Hyung-seok	2004年7月25日～8月1日
釜山大学校（韓国）助教授	金 永賛	2005年7月26日～8月2日
釜山大学校（韓国）教授	孫 東周	2006年7月29日～8月2日
釜山大学校（韓国）教授	金 永賛	2006年8月18日～8月25日
釜山大学校（韓国）教授	Jang Yun-seok	2007年7月28日～8月3日
釜山大学校（韓国）教授	金 永賛	2008年7月26日～8月1日

10 刊行物

『言語科学論集』（専門分野の論集），国語学・言語学と共同，1997年より毎年刊行

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2005年度

「言語研究者・言語教育者養成プログラム 第1回海外日本語教育事情国際シンポジウム：求められる若手日本語教師像」（「魅力ある大学院教育」イニシアティブ）開催，2005年2月18日。

2006年度

日本語教育方法研究会事務局

第27回日本語教育方法研究会（大会）開催，2006年9月23日。

「言語研究者・言語教育者養成プログラム 第2回海外日本語教育事情国際シンポジウム：求められる日本語教師像」（「魅力ある大学院教育」イニシアティブ）開催，2006年9月24日。

言語研究者・言語教育者養成プログラム 講演会，2006年12月18日

言語研究者・言語教育者養成プログラム 特別講演会「韓国語・中国語・日本語—対照言語研究と教育—」（「魅力ある大学院教育」イニシアティブ）開催，2007年1月27日

言語研究者・言語教育者養成プログラム 国際シンポジウム「日本語研究の現在」（「魅力ある大学院教育」イニシアティブ）開催，2007年2月18日

2007 年度

日本理論心理学会第 53 回大会事務局

日本語教育方法研究会事務局

2008 年度

日本語教育方法研究会事務局

日本語教育講演会「音声教育の方法」，2008 年 9 月 23 日

1 2 専攻分野主催の研究会等活動状況（2004～2008 年度）

2005 年度

言語研究者・言語教育者養成プログラム第 1 回活動報告会，11 月

言語研究者・言語教育者養成プログラム第 2 回活動報告会，12 月

言語研究者・言語教育者養成プログラム第 3 回活動報告会，12 月

言語研究者・言語教育者養成プログラム第 4 回活動報告会，1 月

2006 年度

言語研究者・言語教育者養成プログラム第 5 回活動報告会，4 月

言語研究者・言語教育者養成プログラム第 6 回活動報告会，6 月

言語研究者・言語教育者養成プログラム第 7 回活動報告会，7 月

言語研究者・言語教育者養成プログラム第 1 回研究会，7 月

言語研究者・言語教育者養成プログラム第 8 回活動報告会，10 月

言語研究者・言語教育者養成プログラム第 9 回活動報告会，10 月

言語研究者・言語教育者養成プログラム第 10 回活動報告会，11 月

言語研究者・言語教育者養成プログラム 第 1 回特別講義，11 月

言語研究者・言語教育者養成プログラム 第 2 回特別講義，11 月

言語研究者・言語教育者養成プログラム 第 3 回特別講義，12 月

言語研究者・言語教育者養成プログラム第 11 回活動報告会，2007 年 1 月

言語研究者・言語教育者養成プログラム第 12 回活動報告会，1 月

言語研究者・言語教育者養成プログラム第 13 回活動報告会，3 月

2008 年度

日本語教育研究会「音声教育の方法」講演会，2008 年 9 月 23 日

1 3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

2004年度からスタッフに名嶋義直准教授が加わり、学部は教授2名、准教授1名、講師1名、助教1名の計5名で教育・研究にあたってきた。2007年度末に助教が転出し、2008年度から研究助手1名が加わってスタッフは計5名になった。大学院は、2004-2006年度は、助川泰彦准教授（国際交流センター）と福島悦子准教授（高等教育開発推進センター）の2名が、2007年度からは助川准教授（2008年8月から教授）1名が協力教員として加わっており、質・量ともに充実した院生の指導ができています。

日本語教育学研究室では、教育・研究環境の整備にも力を入れてきた。約20台のパーソナルコンピュータを設置し、学生の研究・教育用に利用している。各コンピュータには最新の統計・ワープロ・表計算・プレゼンテーション（プロジェクター使用）・データベース・データ解析などのソフトがインストールされ、調査・実験データの分析、論文執筆や発表練習に十分な環境が整備されている。また、授業では、文献データベースサイトに関する情報を積極的に提供し、利用目的に即したサイト選択が効率よくできるよう指導している。その他、研究室内の資料室には約3,000部の専門書と約2,000部の研究雑誌・紀要・報告書等を蔵している。また、音声研究用の機材・分析装置や日本語の実習授業用の授業観察装置やビデオカメラ、ビデオデッキ等も、互換性に留意しつつ機種を更新を行い、学生の便宜を図っている。

学生からの相談にはきめ細かく応じるようにしており、スタッフ全員が卒業論文の個別指導などの対応を随時柔軟に行っている。卒業論文については、年間4回程度の構想発表・進捗状況報告の機会を設け、円滑に論文作成が進むよう配慮している。

大学院教育においても、各学生の研究相談に随時個別に対応しているほか、週1回の課題研究の時間には、全大学院生に順番に各自の研究内容について発表させている。発表時間を制限して短時間に内容を要領よくまとめる訓練を行うほか、指定討論者や質疑セッションの司会なども順に務めさせ、学会大会や国際会議等での発表を意識させるようにしている。教員は、課題研究後にもさまざまな視点からの指導や助言を与えるようにしている。また、講演会やシンポジウムを複数回開催するなど、院生に刺激を与えると同時に、日本語教育学の研究成果を蓄積することに努めている。特に2005、2006年度は魅力ある大学院教育イニシアティブによるプログラムを活用し、大学院生の国内外での実地見学・調査・研究・学会発表を積極的

に行わせた。同プログラムによって、ほとんどのスタッフが海外の教育拠点を訪れて現地の日本語教育学専門家との交流を深め、卒業生・修了生の新たな就職可能性を拓くとともに、大学院での実習の対象者を複数の国から受け入れるルートを拡大した。さらに、海外在住の卒業生・修了生とのネットワークをより密なものにすることができた。2007年度は予算的な裏付けはなくなったものの、こうして培ったネットワークを活用し、実習の対象者をタイからも2名得ることができた。

スタッフは論文や著書などの出版、研究発表、講演などの研究活動を活発に行うだけでなく、学会役員、ジャーナル編集委員、大会開催委員などを担当して学会にも貢献している。これに加えて、心理学および社会学を専門とする2名のスタッフはそれぞれ東北大学文学研究科および法学研究科のCOEプログラム運営委員として精力的に活動してきた。2008年度からも同スタッフはそれぞれ東北大学文学研究科および法学研究科のグローバルCOEプログラム運営幹事や運営委員となっている。

Ⅲ 教員の研究活動（2004～2008年度）

1 教員による論文発表等

1-1 論文

Izumi SAITA, Akiko TAKAHASHI, Yoshiro OGAWARA, Yasushi INOBUCHI,

Hiroshi HORII, Yoshiyuki KAWAZOE 'Fostering better oral Japanese via e-Learning'(共同)*Proceedings of the CLaSIC2004/ PacCALL@CLaSIC2004*. (in CD-ROM) pp.1035-1039. Singapore: National University of Singapore. 2004.

小河原義朗・高橋亜紀子・才田いずみ・井口寧・堀井洋・川添良幸 「e-Learningを意識したコースウェア設計の考え方」（共同），『日本語教育方法研究会誌』vol.11 No.2. 日本語教育方法研究会. pp. 22-23, 2004

才田いずみ・栗原通世・徐智允・川添良幸・高橋亜紀子・小河原義朗・内山潤・井口寧「ウェブ版ロールプレイ練習のデザインに関する評価」（共同）『日本語教育方法研究会誌』vol.12, No.2. pp. 8-9. 2005.

高橋亜紀子・小河原義朗・才田いずみ・井口寧・堀井洋・川添良幸「システム・エンジニア向け日本語学習コースウェアの開発」（共同），『日本語教育方法研究会誌』vol.12, No.2. pp. 24-25. 2005

Yasushi Inoguchi, Akiko Takahashi, Yoshiro Ogawara and Izumi Saita (2006)

'Evaluation on Interactive e-Learning Japanese Courseware for System Engineers'. In W.M. Chan, K.N. Chin, P. Martin-Lau, M. Nagami, T. Suthiwan & M. Suzuki (eds.) *CLaSIC 2006: Processes and Process-Oriented in Foreign Language*

- Teaching and Learning*. 360-368, CD-ROM. National University of Singapore. 2006.
- 才田いずみ「日本語教育のこれからの展開：遠隔日本語学習支援」『フェリス女学院大学 日本語教育学論究』第2号.3-15. フェリス女学院大学日本語教育運営委員会.2006
- 才田いずみ・井口寧・高橋亜紀子・小河原義朗「遠隔日本語学習とテレビ会議」(共同) Satoru Shinagawa (ed.) *CASTEL-J in Hawaii 2007 Proceedings*. 67-70. CD-ROM. 2007.
- 才田いずみ「実習生の授業イメージと教師役割観」藤原雅憲・西村よしみ・堀恵子・内山潤・才田いずみ(編)『大学における日本語教育の構築と展開：大坪一夫教授古稀記念論文集』ひつじ書房, 2007.
- 加藤由香里・才田いずみ「上級日本語読解コンテンツの開発—専門教育との連携を志向するeラーニング」(共同)日本教育工学会第23回大会講演論文集, 857-858 2007.
- 才田いずみ「日本語教育実習生についての実習生の受けとめ」『日本語教育学世界大会2008《第7回日本語教育国際研究大会》予稿集』第3分冊. 7-10. 2008.
- 鈴木淳子「ジェンダーの比較文化的研究の動向—1990年以降の概念定義とメソドロジーを中心に—」『心理学研究』75, pp.160-172, 2004.
- 鈴木淳子「東北大学文系学部卒業生のキャリア選択規定要因」『東北心理学研究』, 54, 2004.
- 鈴木淳子「若年男女のキャリア形成規定要因に関する縦断的研究, 科学研究費助成研究成果報告書, 2004.
- 鈴木淳子「働く女性に優しい組織風土と文化をどう築くか」『人事マネジメントハンドブック』(共著) 日本労務研究会, pp.777-779, 2004.
- 鈴木淳子「家族とジェンダー」潮村公弘・福島治編著『社会心理学概説』北大路書房, pp.148-156, 2007.
- SUZUKI Atsuko Introduction: micro-macro Dynamics. In Atsuko Suzuki (ed.), *Gender and career in Japan*. Melbourne, Victoria: Trans Pacific Press. pp.1-32. 2007.
- 鈴木淳子「キャリア・ジェンダーと不平等」原 純輔・佐藤嘉倫・大淵憲一(編著)『社会階層と不平等 放送大学教育振興会, pp.177-191. 2008.
- 鈴木淳子「男性性とメンタルヘルス」柏木恵子・高橋恵子編『日本の男性の心理学—もう1つのジェンダー問題—』有斐閣, pp.24-28. 2008.

- 名嶋義直「留学生と日本人学生が共に学ぶ授業の有益性について-2003年1 Semester開講『日本事情E』を例に-」『東北大学留学生センター紀要』第7号，東北大学留学生センター，pp.19-27，2004.
- 名嶋義直「全学教育(科目)に対するニーズ調査から-留学生対象科目での試み-」『東北大学大学教育センター年報』第11号，東北大学大学教育研究センター，pp. 87-95，2004.
- 名嶋義直「『ノダの意味・機能』に関する『学習者のメタ文法認知』」東北大学留学生における予備調査の結果から-」『日本語教育論集』第13号，姫路獨協大学大学院言語教育研究科日本語教育コース，pp.41-49，2004.
- 名嶋義直「再考『しかし』の意味・機能」，『語用論研究』第6号，日本語用論学会，pp.1-15，2004.
- 名嶋義直「学習者の考える『ノダの意味・機能』に関する覚え書き-母国で受けた教授内容との関係から-」『日本語教育論集』第14号，姫路獨協大学大学院言語教育研究科日本語教育コース，pp.17-24，2005.
- 名嶋義直「日本事情科目と日本語科目との有機的連携—双方における学習効果を高めるために—」『東北大学大学教育センター年報』12，東北大学大学教育研究センター，pp.117-129,2005.
- 名嶋義直「推意に関する一考察-ノダ研究の過程から-」『文化』第69巻1・2号，東北大学文学会，pp.94-111，2005.
- 名嶋義直「異文化理解リテラシー育成に向けて-日本事情授業における取り組みから-」，『日本語教育』129，日本語教育学会，pp.41-49. 2006.
- 名嶋義直「ノダの文法的意味の記述に向けた試み(その1)-果たしてノダは『説明のモダリティ』か-」，『文化』第71巻1・2号，東北大学文学会，2008(印刷中).
- 名嶋義直「母語話者による母語話者ロールプレイング発話の評価からわかること—口頭コミュニケーション文法へのアプローチ—」，水谷修(監)，小林ミナ・日比谷純子(編)，『日本語教育の過去・現在・未来 第5巻 文法』，凡人社，2008(編集中).
- TANAKA Sigeto “A Cross-National Comparison of the Gender Gap in Time-Use: Reanalyzing Data from Japan and Six Western Countries”，『東北大学文学研究科研究年報』第53号，東北大学大学院文学研究科，pp. 152-137，2004.
- TANAKA Sigeto “Principal Earner and Accommodator in Household: An Illustration of Gender Stratification Process in Contemporary Japan”，*Gender Law and Policy*

- Annual Review* Vol. 1, 東北大学 21 世紀 COE プログラム「男女共同参画社会の法と政策 ジェンダー法・政策研究センター」, pp. 25-48, 2004.
- 田中重人 「世帯のなかの所得核と調整役: 現代日本における性別階層の過程」『東北大学 21 世紀 COE プログラム「男女共同参画社会の法と政策 ジェンダー法・政策研究センター」研究年報』第 1 号, 東北大学 21 世紀 COE プログラム「男女共同参画社会の法と政策 ジェンダー法・政策研究センター」, pp. 31-43, 2004.
- 田中重人 「無効回答の発生」渡辺秀樹／稲葉昭英／嶋崎尚子編『現代家族の構造と変容: 全国家族調査 (NFRJ98) による計量分析』東京大学出版会, pp. 25-37, 2004.
- 田中重人 「Web 入力システムの開発」平成 14～16 年度科学研究費補助金基盤研究 (B) 研究成果報告書『社会学文献情報の蓄積システムの構築のための試験研究』, 名古屋大学大学院環境学研究科, pp. 25-38, 2005.
- 田中重人 「ノルウェーとフィンランドの男女平等関連施策」『北欧視察調査報告書: 仕事と家庭生活の両立支援について』, せんだい男女共同参画財団, pp. 45-55, 2005.
- 田中重人 「サンプリングとデータの基本特性」『第 2 回 家族についての全国調査 (NFRJ03) 第一次報告書』, 日本家族社会学会全国家族調査委員会, pp. 23-34, 2005.
- 田中重人 「性別格差と平等政策: 階層論の枠組による体系的批判」嵩さやか／田中重人編『ジェンダー法・政策研究叢書 9: 雇用・社会保障とジェンダー』東北大学出版会, pp. 217-238, 2007.
- 田中重人 「ライフスタイル中立的な平等政策へ: 両立政策は正当化できるか」辻村みよ子／河上正二／水野紀子編『ジェンダー法・政策研究叢書 12: 男女共同参画推進のための政策提言』東北大学出版会, pp. 283-301, 2008.
- TANAKA Sigeto “Career, Family, and Economic Risks: A Quantitative Analysis of Gender Gap in Post-divorce Life”, 『2005 年 SSM 調査シリーズ 9: ライフコース・ライフスタイルから見た社会階層』2005 年 SSM 調査研究会, pp. 21-33, 2008.
- 田中重人 「データ・リダクションのための汎用モジュールの開発: 効率のよい職歴分析のために」『2005 年 SSM 調査シリーズ 12: 社会調査における測定と分析をめぐる諸問題』2005 年 SSM 調査研究会, pp. 21-45, 2008.
- 栗原通世 「中国語北方方言話者の日本語長音の知覚特徴」『東北大学大学院文

学研究科言語科学論集』 8, pp.1-12, 2004.

栗原通世 「定住外国人への保健・医療支援の現状—保健・医療通訳ボランティアの視点から—」, (共同), 遠藤清佳/栗原通世/助川泰彦, 『多言語社会と外国人の学習支援』, 日比谷順子・平高史也編著, 慶應義塾大学出版会, pp.51-67, 2005.

栗原通世 「中国語北方方言話者の日本語長音と短音の産出について」 『東北大学大学院文学研究科言語科学論集』 9, pp.107-118, 2005.

栗原通世 「中国語北方方言を母語とする日本語学習者による母音長の制御と長短の知覚」 『音声研究』 10(2), pp.77-85, 2006.

KURIHARA, Michiyo., “The Identification of Japanese Long and Short Vowels by Mandarin Chinese Speakers” In W.M. Chan, K.N. Chin, P. Martin-Lau, M. Nagami, T. Suthiwan & M. Suzuki (eds.) CLaSIC 2006: Processes and Process-Oriented in Foreign Language Teaching and Learning. The 2nd CLS International Conference, CD-ROM. National University of Singapore, pp.451-460, 2006.

栗原通世・助川泰彦 「フィンランド人・韓国人・中国人日本語学習者による母音長短の範疇知覚化」 『東北大学大学院文学研究科研究年報』 57, 東北大学大学院文学研究科, P.25-P.43, 2008.

1-2 著書・編著

藤原雅憲・西村よしみ・堀恵子・内山潤・才田いずみ 『大学における日本語教育の構築と展開:大坪一夫教授古稀記念論文集』(共編著) ひつじ書房, 2007.

鈴木淳子 『調査的面接の技法』 (第2版) (単著) ナカニシヤ出版, 2005.

鈴木淳子・柏木恵子 『ジェンダーの心理学:心と行動への新しい視座 心理学の世界 専門編5』 (共著) 培風館, 2006.

Atsuko Suzuki (ed.). *Gender and career in Japan*. Melbourne, Victoria: Trans Pacific Press, 2007. (編著)

名嶋義直 『日本語研究叢書 19 ノダの意味・機能-関連性理論の観点から-』 (単著), くろしお出版, 2007.

嵩さやか・田中重人 『ジェンダー法・政策研究叢書 9: 雇用・社会保障とジェンダー』 (共編著), 東北大学出版会, 2007.

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

才田いずみ 「コンピュータ利用の活動」 「口頭発表」 「論文」 「ポスター発表」

- 「教材」「教材シラバス」「主教材・副教材・補助教材」『新版日本語教育事典』大修館書店，2005.
- 才田いずみ「学習者の日本語が教えてくれること」原研二・鈴木岩弓・金子義明・沼崎一郎編『人文社会科学の世紀』改訂版．東北大学出版会． 81-88. 2006.
- 才田いずみ「(4) 教師と教育現場：特別寄稿 第7回日本語教育国際研究大会報告」『日本語教育』139. 日本語教育学会． 80-84. 2008.
- 鈴木淳子・佐藤嘉倫 『人文科学ハンドブック-スキルと作法-』 (共著) 東北大学出版会． pp.87-93, 2005.
- 鈴木淳子 「ジェンダー」 岡村一成(編著)『応用心理学事典』丸善． pp.192-193. 2007.
- 鈴木淳子 「面接法」 日本社会心理学会(編)『社会心理学事典』丸善． 2009.
- 名嶋義直 『人文科学ハンドブック-スキルと作法-』 (共著) 東北大学出版会． pp.127-130. 2005.
- TANAKA Sigeto (translated by Stacey Jehlik)
 “Housekeepers' Capacity as a Supply of Labor” (翻訳), *Japanese Economy*, 34(4), M. E. Sharpe, pp. 57-75, 2008.

1-4 口頭発表

(1) 国際学会

Izumi SAITA, Akiko TAKAHASHI, Yoshiro OGAWARA, Yasushi INOBUCHI, Hiroshi HORII, Yoshiyuki KAWAZOE. "Fostering better oral Japanese via e-Learning", 共同, PacCALL@CLaSIC2004. National University of Singapore. 2004年12月2日

Izumi SAITA "Web-based role-play practice package", 単独, JSAA (オーストラリア日本研究学会) アデレード大学, 2005年7月5日

Yoshiro OGAWARA, Izumi SAITA, Akiko TAKAHASHI, Yasushi INOBUCHI, Hiroshi HORII, Yoshiyuki KAWAZOE 「日本語ができるSE養成を目指す遠隔日本語学習コースウェア」, 共同, JSAA (オーストラリア日本研究学会), アデレード大学, 2005年7月5日

Izumi SAITA 基調講演 “Does Multimedia really work well?”, Multimedia Adventures in Language Learning, Sunway Lagoon Resort Hotel, Institute of Modern Languages and Communication, Multimedia University, Malaysia. 2006

年 8 月 22 日

Izumi SAITA 招待講演 “E-Learning and the Future Promotion of Japanese Language Learning”, Multimedia Adventures in Language Learning, Sunway Lagoon Resort Hotel, Malaysia. Institute of Modern Languages and Communication, Multimedia University, Malaysia. 2006 年 8 月 22 日

Akiko TAKAHASHI, Yasushi INOBUCHI, Yoshiro OGAWARA and Izumi SAITA “Interactive e-Learning Courseware for System Engineers”. 共同, Multimedia Adventures in Language Learning, Sunway Lagoon Resort Hotel, Institute of Modern Languages and Communication, Multimedia University, Malaysia. 2006 年 8 月 22 日

Izumi SAITA 基調講演 “Recent Trends in Material Development for Japanese Language Learning.”, Second International Conference in Language Learning, Grand Plaza ParkRoyal Hotel, Penang, Malaysia, Centre for Language and Translation, Universiti, Sains Malaysia. 2006 年 11 月 25 日

才田いずみ シンポジスト「日本語 e-Learning コンテンツ開発の考え方」国際シンポジウム：これからの CALL—CALLing the Future, シンポジウム 2 「CALL の多様性」。主催：神戸大学国際コミュニケーションセンター。2006 年 12 月 3 日

Yasushi INOBUCHI, Akiko TAKAHASHI, Yoshiro OGAWARA and Izumi SAITA ‘Evaluation on Interactive e-Learning Japanese Courseware for System Engineers’. 共同, CLaSIC2006. National University of Singapore. 2006 年 12 月 7 日

才田いずみ, 招待発表, 「ウェブ利用の e-Learning 教材とその活用促進策」第 15 回オーストラリア日本研究学会大会, オーストラリア国立大学, 2007 年 7 月 2 日.

才田いずみ・井口寧・高橋亜紀子・小河原義朗「遠隔日本語学習とテレビ会議」共同, CASTEL-J in Hawaii 2007, Kapiolani Community College. 2007 年 8 月 3 日

才田いずみ, 招待発表, 「日本語教育実習生についての実習生の受けとめ」日本語教育学世界大会 2008, 釜山外国語大学, 2008 年 7 月 12 日

名嶋義直「日本事情科目を中心とした日本語科目の有機的関連-東北大学全学教育科目での取り組みから-」, 単独, 2004 年日本語教育国際研究大会, 昭和女子大学/東京都, 2004 年 8 月 7 日

名嶋義直「母語話者による母語話者ロールプレイング発話の評価からわかること」,

単独, 2008 年日本語教育国際研究大会 ICJLE2008, 釜山外国語大学／韓国釜山, 2008 年 7 月 11 日

小林ミナ・名嶋義直・品田潤子・宮崎聡子「コミュニケーションのための『話す』」, 共同, 2008 年日本語教育国際研究大会 ICJLE2008, 釜山外国語大学／韓国釜山, 2008 年 7 月 13 日

TANAKA Sigeto “Risky Investment: Theorizing Housekeepers' Disadvantageous Human Capital Accumulation”, 単独, The 20th World Congress, International Federation for Home Economics, 国立京都国際会館／京都, 2004 年 8 月 6 日

TANAKA Sigeto “The Scope of Altruism: Patriarchy and the Modern Family under Japanese Law and Norms”, 単独, Annual Conference, International Association for Feminist Economics, University of Sydney, Sydney, 2006 年 7 月 8 日

TANAKA Sigeto “Against Intra-Household Exploitation: Philosophy and Policy for Equity within the Family in Japanese Context”, 単独, The 4th Annual East Asian Social Policy Research Network (EASP) International Conference, 東京大学／東京都, 2007 年 10 月 20 日.

栗原通世 「母語別に見た日本語学習者による母音長の範疇知覚」 (共同) 助川泰彦, Fifth International Conference on Practical Linguistics of Japanese (第 5 回日本語実用言語学国際学会), San Francisco State University, U.S.A, 2006 年 3 月 4 日.

KURIHARA, Michiyo., “The Identification of Japanese Long and Short Vowels by Mandarin Chinese Speakers”, (単独), The Second CLS International Conference, National University of Singapore, Singapore, 2006 年 12 月 8 日

(2) 国内学会

井口 寧・小河原 義朗・高橋 亜紀子・堀井 洋・才田 いずみ・川添 良幸 「日本語 e-Learning システムにおける 3 次元画像の活用」 (共同), 2004 年度電気関連学会 北陸支部連合大会, 2004 年 9 月 17 日

小河原義朗・高橋亜紀子・才田いずみ・井口寧・堀井洋・川添良幸 「e-Learning を意識したコースウェア設計の考え方」 (共同), 第 23 回日本語教育方法研究会, 広島留学生会館ホール. 2004 年 9 月 18 日

才田いずみ・栗原通世・徐智允・川添良幸・高橋亜紀子・小河原義朗・内山潤・井口寧 「ウェブ版ロールプレイ練習のデザインに関する評価」 (共同), 第 25 回日本語教育方法研究会, 徳島大学, 2005 年 9 月 17 日

- 高橋亜紀子・小河原義朗・才田いずみ・井口寧・堀井洋・川添良幸 「システム・エンジニア向け日本語学習コースウェアの開発」 (共同), 第 25 回日本語教育方法研究会, 徳島大学, 2005 年 9 月 17 日
- 加藤由香里・才田いずみ 「上級日本語読解コンテンツの開発—専門教育との連携を志向するeラーニング」 (共同) 日本教育工学会第 23 回全国大会, 早稲田大学, 2007 年 9 月 24 日
- 鈴木淳子 「育児参加する父親—多重役割を遂行する心理とキャリア発達—」, 単独, 日本発達心理学会第 15 回大会ラウンド・テーブル・ディスカッション, 白百合女子大学, 2004 年 3 月 23 日
- 鈴木淳子 21 世紀 COE プログラム 社会階層と不平等教育研究拠点 マイノリティ研究部門 特別ワークショップオーガナイザー. "Is the Marriage Possible?: Empirical Studies on Gender and Career in Sociology and Social Psychology. I." (ジェンダーとキャリアの実証的研究— 社会学と社会心理学のコラボレーションは可能か (1) —), 2004 年 9 月 24 日
- 鈴木淳子 21 世紀 COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点」 マイノリティ研究部門 特別ワークショップオーガナイザー. "Is the Marriage Possible?: Empirical Studies on Gender, Family, and Work in Sociology and Social Psychology." (ジェンダー・家族・職業— 社会学と社会心理学のコラボレーションは可能か (2) —), 2005 年 9 月 16 日
- 鈴木淳子 「心理学におけるジェンダー研究の今後の課題」, 単独, 大学院イニシアティブ講演会にて講演, 名古屋大学大学院教育発達科学研究科, 2006 年 3 月 10 日
- 鈴木淳子 産業・組織心理学会部門別研究会 (人事部門) 「働く人々とワーク・ライフ・バランス」 コメンテーター, 2007 年 7 月 21 日
- 田中重人 「第 2 回全国家族調査 (NFRJ03) の結果から」, 単独, 第 15 回大会, 日本家族社会学会, 島根大学/松江市, 2005 年 9 月 10 日
- 栗原通世 「中国語北方方言話者の日本語長音の知覚と産出の関係」, (単独), 2005 年度日本語教育学会春季大会, 横浜国立大学, 2005 年 5 月 22 日.
- 栗原通世 「日本語学習者による母音長の知覚に関する基礎的研究—フィンランド語・中国語・韓国語話者を対象として—」, (単独), 第 28 回日本語教育方法研究会, 早稲田大学, 2007 年 3 月 17 日
- 今野晃嗣・日高聡太・丸山俊・柴田寛・栗原通世・田中章浩・藤本茉莉・小泉政利・行場次朗・萩原裕子 「母語と非母語の物語聴取時における脳活動のNIRS

による測定「成人と幼児の比較」，（共同），第4回子ども学会議，慶應義塾大学，2007年9月15日－16日

日高聡太・柴田寛・栗原通世・田中章浩・藤本茉莉・小泉政利・行場次朗・萩原裕子「幼児と成人を対象とした母語・非母語による物語聴取時におけるNIRSを用いた脳活動測定」，（共同），日本心理学会第71回大会，東洋大学，2007年9月18日

（3）研究会

才田いずみ「日本語教育におけるコンピュータの活用」CLSセミナー（招待講演），単独，シンガポール国立大学，2004年12月4日

高橋亜紀子・小河原義朗・才田いずみ「発話を重視した日本語e-Learningシステムの開発の試みとその評価」，共同，日本語教育学会研究集会，仙台：東北大学，2004年12月18日

才田いずみ シンポジウム司会「シンポジウム：大養協のこれまでの歩みと将来の展望」大学日本語教員養成課程研究協議会第30回大会，熊本県立大学，2006年10月6日

才田いずみ コメンテーター 独立行政法人国立国語研究所公開研究発表会「生活日本語」の学習をめぐる一文化・言語の違いを超えるために」 2008年1月26日.

才田いずみ コメンテーター 第21回神戸大学留学生センター・コロキウム「短期研修プログラムの意義と可能性を考える—大学の国際戦略と日本語教育の観点から—」 2008年2月9日.

才田いずみ シンポジウムパネリスト「「新たな教育内容」の再評価」大学日本語教員養成協議会シンポジウム「多文化共生社会における日本語教員養成課程の役割と可能性」首都大学東京，2008年5月23日.

名嶋義直「ノダに関する学習者の理解と海外での教授内容について-東北大学留学生対象の調査-」，単独，平成16年度日本語教育学会第1回研究集会，三重大学／津市，2004年6月5日

名嶋義直「学習者はノダをどのように位置付けているか」，単独，第2回名古屋大学日本語教育研究集会，名古屋大学／名古屋市，2004年8月9日

名嶋義直「ノダは『説明のモダリティ』か」，単独，第3回名古屋大学日本語教育研究集会，名古屋大学／名古屋市，2005年8月8日

名嶋義直「会話授業における2つの試み—『ポートフォリオ評価』と『ほとんど

話さない会話授業』一」，単独，2005 年度沖縄県大学等日本語教育研究会
第3回研究例会，琉球大学／西原町，2006年3月9日

名嶋義直 「終助詞ヨとネに関する語用論的考察-手続き的意味の観点から-」，単
独，第4回日本語教育研究集会，名古屋大学／名古屋市，2006年8月7日

名嶋義直 「学習者の日本語に対する母語話者の評価について-日本語教育関係を
学ぶ大学生の場合-」，単独，沖縄県大学等日本語教育研究会例会 2007 年度
第3回研究例会，放送大学沖縄学習センター／西原町，2007年3月8日

名嶋義直 「自然な日本語を教えるために教師は何に着目すればいいか-日本語教
育関係を学ぶ大学生による評価を手掛かりに-」，単独，日本語教育学会 平
成 19 年度日本語教育学会第3回研究集会，岐阜大学／岐阜市，2007年6月
18日

名嶋義直 「学習者の発話には何が欠けているか-ロールプレイ発話の会話
分析-」，単独，第5回日本語教育研究集会，名古屋大学／名古屋市，
2007年8月6日

名嶋義直 「日本語母語話者による日本語母語話者会話の評価からわかること」，
単独，沖縄県大学等日本語教育研究会例会 2007 年度第3回研究例会，放送大
学沖縄学習センター／西原町，2008年3月1日

名嶋義直 「母語話者による母語話者ロールプレイング発話の評価からわかるこ
と-『意味』と『流れ』に関する肯定的コメントを中心に-」，単独，第6回日
本語教育研究集会，名古屋大学／名古屋市，2008年8月4日

2 教員の受賞歴 (2004~2008 年度)

才田いずみ 第1回東北大学総長教育賞 2004年3月

IV 教員による競争的資金獲得 (2004~2008 年度)

(1) 科学研究費補助金

才田いずみ (研究代表者) : 基盤研究(C)(2)2004 年度~2005 年度 課題番号 :
16520310「多元メディアによる遠隔日本語学習支援システムの研究」3,500,000
円 (2年間総額)

才田いずみ (研究代表者) : 基盤研究(B)2006 年度~2008 年度 課題番号 :
18320079 : 「社会的・文化的要素を意識した多元・多層日本語学習支援シ
ステムの研究」12,500,000 円 (2006, 2007 年度分の合計額)

鈴木淳子（研究代表者）：基盤研究(C)(2)2002年度～2004年度 課題番号：
14510117：「若年男女のキャリア形成規定要因に関する縦断的研究」2,700,000
円（3年間総額）
鈴木淳子（研究代表者）：特別研究員奨励費 2004年度～2005年度 課題番号：
16004002-00「職業的階層の上昇を目指す移民女性：日本とアメリカ合衆国に
滞在するブラジル女性の比較研究」2,290,000円（2年間総額）
田中重人（研究代表者）：若手研究 (B) 2005年度～2007年度 課題番号：17710205
「カップル単位意思決定の下でのジェンダー平等」600,000円（2007年度分）

（2）その他

才田いずみ（取組実施担当プログラム責任者）2005年度 魅力ある大学院教育イ
ニシアティブ「言語研究者・言語教育者養成プログラム」17,437,000円（文
部科学省）4,000,000円（東北大学総長裁量経費）
才田いずみ（取組実施担当プログラム責任者）2006年度 魅力ある大学院教育イ
ニシアティブ「言語研究者・言語教育者養成プログラム」31,579,000円（文
部科学省）4,000,000円（東北大学総長裁量経費），4,248,745円（研究科長裁
量経費）
田中重人 2005年 男女共同参画推進助成金（東北大学男女共同参画奨励賞「沢
柳賞」受賞賞金）400,000円

V 教員による社会貢献（2004～2008年度）

（1）政府・地方公共団体関係機関等の委員

才田いずみ 文部科学省独立行政法人評価委員会臨時委員 2004年度～現在に至
る。
才田いずみ 独立行政法人日本学術振興会「魅力ある大学院教育」イニシアティ
ブ委員会分野別審査部会書面審査委員 2006年度
才田いずみ 独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会専門委員 2006年度
才田いずみ 独立行政法人日本学術振興会 大学院教育改革支援プログラム委員
会分野別審査部会（書面審査委員）2007～2008年度
才田いずみ 独立行政法人国立国語研究所 教師教育研究委員会委員 2004年度
～2005年度
才田いずみ 独立行政法人日本学生支援機構日本留学試験問題点検委員 2003年度
～2004年度

才田いずみ 日本学術会議連携会員 2006年8月～現在
才田いずみ 財団法人日本語教育振興協会 審査委員会専門委員 2004年度～
現在
才田いずみ 財団法人東北大学研究教育振興財団 財務委員会委員 2004年度～
現在
才田いずみ 財団法人仙台国際交流協会評議員 2004年度～2008年5月
才田いずみ 財団法人仙台国際交流協会日本語ボランティア育成講座講師
2004年度～2008年度
才田いずみ 財団法人仙台国際交流協会「市民国際交流事業補助金審査会」審査
委員 2003年度～2006年度

(2) 公開講座等の講師

才田いずみ 講義 「授業観察とそのデータを生かすには」 (独) 国立国語研所
上級研修・講師, 2005年6月11日
Izumi SAITA 講演 “Learning Japanese Efficiently.” at TMA Solutions, Ho Chi
Minh City, Vietnam. 2006年3月21日
才田いずみ 公開講義 「日本語はちゃんと使われているだろうか」平成18年度
東北大学文学部オープンキャンパス 2006年7月28日
才田いずみ 講演「日本における日本語教育の現状」 中国 西安外国語学院
2006年12月25日
才田いずみ 講演「日本語上達への心構え」 中国 西安外国語学院日本語学部
2006年12月28日
鈴木淳子 講演会 「調停場面におけるノンバーバル・コミュニケーション・ス
キル ―説得力ある面接者をめざして―」 仙台家庭裁判所 2007年1月24
日
鈴木淳子 放送大学 「社会階層と不平等」第12回講義：キャリア・ジェンダ
ーと不平等 (講師) 2007年9月4日 (収録)
名嶋義直 特別授業 福島県立磐城高等学校 2007年10月23日
名嶋義直 研修会 凡人社日本語サロン研修会「教師力♡文法力」(全体討論司
会進行, コメンテーター), 東京国際大学早稲田サテライト, 2008年8月17
日

(3) NPO・NGO 法人・民間企業との協力関係等

才田いずみ NPO 法人日本語 e-Learning センター 理事長 2005 年度～現在

VI 教員による学会役員等の引き受け状況 (2004～2008 年度)

才田いずみ

国立大学日本語教育研究協議会 理事 2003 年度～2004 年 9 月

日本語教育方法研究会 運営委員 2003 年度～2006 年度

日本語教育方法研究会 会長 2006 年 4 月～現在に至る。

日本語教育学会評議員 2003 年 6 月～2005 年 5 月末

日本語教育学会 常任理事 2005 年 6 月～現在に至る。

日本語教育学会大会委員 (副委員長) 2005 年 7 月～現在に至る。

鈴木淳子

東北大学 21 世紀 COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点」事業推進担当者 2003 年度～2007 年度

東北大学 21 世紀 COE プログラム 運営幹事 2006 年度～2007 年度

日本社会心理学会「社会心理学研究」編集委員 2005 年度～現在に至る。

日本社会心理学会 学会賞選考委員 2006 年 6 月～9 月

日本社会心理学会 学会賞選考委員・選考小委員会 (出版賞) 委員 2007 年 6 月～9 月

産業・組織心理学会 常任理事 2007 年度～現在に至る。

産業・組織心理学会 「産業・組織心理学研究」編集委員 2007 年度～現在に至る。

日本理論心理学会第 53 回 大会委員長 2007 年 11 月 17 日・18 日

東北大学グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」運営幹事・マイノリティ部門長 2008 年 4 月～現在に至る。

名嶋義直

日本語教育方法研究会事務局長 2006 年度～現在に至る。

日本語文法学会 学会誌委員 2007 年度～現在に至る。

名古屋大学日本語教育研究集会 実行委員会 2003 年度～現在に至る。

小出記念日本語教育研究会 研究委員 2008 年度

田中重人

日本家族社会学会全国家族調査委員会委員 2004 年～現在に至る。

日本社会学会データベース委員会委員 2003年～現在に至る。

Ⅶ 教員の教育活動（2008年度）

（1）学内授業担当

1 大学院授業担当

才田いずみ

- 1 学期 日本語教育論講読「第二言語習得と学習者」
- 2 学期 日本語教育論研究演習Ⅱ「話すスキルを育てる活動」
- 通年 課題研究（専攻分野全教員と共同）

鈴木淳子

- 1 学期 比較現代日本論研究演習Ⅰ「質問紙調査の技法」
- 2 学期 比較現代日本論講読Ⅱ「キャリアとジェンダー」
- 2 学期 比較現代日本論特論Ⅱ「調査的面接の技法」
- 通年 課題研究（専攻分野全教員と共同）

名嶋義直

- 1 学期 日本語教育論実習Ⅰ「コースデザインの基礎」
- 2 学期 日本語教育論実習Ⅱ「日本語コースの評価と改善」
- 2 学期 日本語教育論特論Ⅱ「誤用から考える」
- 通年 課題研究（専攻分野全教員と共同）

田中重人

- 1 学期 比較現代日本論講読Ⅰ「現代日本論論文講読」
- 1 学期 比較現代日本論研究演習Ⅰ「統計分析入門」
- 2 学期 比較現代日本論研究演習Ⅱ「実践的統計分析法」
- 通年 課題研究（専攻分野全教員と共同）

2 学部授業担当

才田いずみ

- 1 セメスター 人文社会総論（分担）「日本語教育と日本語教育学」
- 2 セメスター 人文社会序論「日本語はどう使われているか」
- 3 セメスター 日本語教育学基礎講読「外国語学習と習得」
- 3 セメスター 日本語教育学概論「日本語と日本語教育」
- 4 セメスター 日本語教育学概論「日本語教育の基礎」
- 5 セメスター 日本語教育学演習「メディア利用と日本語授業活動デザイン」

5 セメスター 日本語教育学実習「日本語コース運営の基礎」

6 セメスター 日本語教育学実習「日本語コース運営の実際」

鈴木淳子

3 セメスター 現代日本論概論「対人心理の諸相- 個人, 集団, 社会- (1)」

4 セメスター 現代日本論概論「対人心理の諸相- 個人, 集団, 社会- (2)」

5 セメスター 現代日本論演習「質問紙法の基礎を学ぶ」

6 セメスター 現代日本論講読「ワーク・ライフ・バランスを考える」

名嶋義直

1 セメスター 人文社会総論, 世話教員

4 セメスター 日本語教育学基礎講読「日本語を文法的に考えるための基礎を学ぶ」

5 セメスター 日本語教育学講読「日本語を文法的に考える」

6 セメスター 日本語教育学各論「誤用から考える」

田中重人

3 セメスター 現代日本論基礎講読「論文作成の基礎」

4 セメスター 現代日本論基礎講読「現代日本文化に関する論文講読」

5 セメスター 現代日本論演習「統計分析の基礎」

6 セメスター 現代日本論演習「応用統計分析」

3 共通科目・全学科目授業担当

鈴木淳子

2 セメスター 基幹科目 「ジェンダーと人間社会」

名嶋義直

1 セメスター 全学教育科目 言語学「誤用から考える日本語」

(2) 他大学への出講 (2004~2008 年度)

才田いずみ

宮城学院女子大学大学院・人文科学研究科 (通年) (2003~2007 年度)

桜美林大学大学院・国際学研究科 (集中講義) (2003~2007 年度)

岩手大学・教育学部 (集中講義) (2003~2007 年度)

鈴木淳子

宮城学院女子大学 (集中講義) (2003~2006 年度)

慶応義塾大学（集中講義）（2003年度～2005年度）

茨城大学（集中講義）（2004年度）

山形大学（集中講義）（2007年度）

名嶋義直

金城学院大学（集中講義）（2006年度～2008年度）

仙台白百合女子大学（通年）（2008年度）

栗原通世

宮城教育大学（通年）（2004年度～2007年度）